

無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



vol.

83

2026.3

<https://www.scrum21.or.jp/>

アートとジェンダー

アートとジェンダー

映画業界の

制作現場から

Interview

ムーブアート 応援

NPO 法人かわさき MOVEARTOO 隊
事務局長

寺川 香苗 さん



オフィス街、工場地帯、住宅地、田園風景など、さまざまなロケーションが南北に広がる川崎市では、多くのドラマや映画などのロケ地として撮影が行われています。

今回は、ロケ地の誘致活動や映像に関連する活動を通じてかわさきの魅力を発信し、地域の活性化を図る、NPO 法人 かわさき MOVEARTOO 隊の事務局長・寺川香苗さんにお話を伺いました。

ムーブとアートを応援する活動で 川崎を元気にしたい

川崎市では 2008 年から「ロケ地川崎推進事業」という映画やドラマ等の撮影の誘致活動によって市の所管施設等をロケ地として活用し、川崎市の魅力を発信する事業を進めています。私たち、かわさき MOVEARTOO 隊は、この事業の受託をしています。具体的には、川崎市役所をはじめとする市内の施設でロケをするときの相談窓口や、撮影に必要な申請書についての案内、現場の管理を行っています。

また、市からの受託とは別に、民間企業の建物や施設、個人の物件を撮影に使用するための運営管理もしています。遊休施設などをスポット的に貸すことで、維持管理費の補填や資産の有効活用ができますからね。

その他、私たちは「映像のまち・かわさき」推進フォーラムという任意団体の事務局をしています。これは市内の映像に関わる事業者や団体、映画大学などで構成され

るフォーラムで、交流・連携しながら地域の活性化を図る活動をしています。例えば小学校で開催される寺子屋の映像ワークショップをしたり、映像関連の授業をするときにサポートや講師派遣をしたり。上映会などのイベント開催や市内のロケ地に関する広報活動も行っています。

普段の私のメイン業務は、ロケ地を紹介することです。NPO の設立前も個人で同様の仕事をしていたんですね。撮影隊から「こういう撮影場所を探しているけど、どこかない？」という相談や依頼の連絡から始まって、紹介してロケハンの対応をし、話をまとめて撮影に立ち会う、というのが主な仕事の流れです。朝から晩まで撮影現場にいたので、出演する俳優さんとお昼をご一緒することも多いです。

法人名は「〇〇隊」と書いて応援隊と読むのですが、アルファベットのオーと、円を表しています。くっつけると∞(無限大)になるということで、活動が広がって地域が活性化するようにという想いも込めています。



▲ 川崎市市内での撮影シーン(写真左：映画『ショウタイムセブン』では、「政治団体の本部事務所」の設定で、川崎市役所本庁舎で撮影が行われた。／写真右：映画『片思い世界』では、主人公達3人が住む家とその周辺の道を、臨海部の研究施設で撮影。)
川崎市市内では、「かわさきロケアワード」でも第1位に選ばれた人気映画『シン・ゴジラ』の撮影があったのは有名だが、そのほか企業の施設や多摩川の河川敷など、川崎市市内のさまざまな場所でロケが行われ、映画やドラマ好きな国内外のファンが聖地巡礼として訪れることも。今は新しくなった川崎市役所本庁舎も人気で、最近まで放送されたドラマ『じゃあ、あんたがつくってみようよ』でもロケ地として利用された。

イメージが映像に繋がる面白さを感じて

元々は企業の営業アシスタントをしていましたが、当時は子育て中だったこともあり、営業所が自宅から通勤が難しくなる場所へ移転するタイミングで退職しました。

その後は、ハウスウェディングのウェディングプランナーとしてしばらく働きました。ウェディングやパーティーは基本的に週末開催なので、平日はあまり使われません。そこで、平日は撮影会場として遊休住宅なども有効利用しようと、会社として撮影に関する業務も行うようになりました。パーティーなどと違って、撮影だと、お客様が飲酒することもなく綺麗に使われ、さらに予算ももっているの、事業としてもなかなか面白いなと思いました。

そんなある日、映画「リング」(1998年)で大学教授の住まいのシーンを撮影したいので、趣のあるアパートを探してくれないか、と相談がありました。そこで昔友人が住んでいたアパートを思い出して行ってみたら、まだあったんです。オーナーに話を聞くと「昔、石原裕次郎も撮影に来たんだよ」と。そのアパートは原宿の同潤会の系列の物件で、すぐに撮影も決まりました。そのときに、自分のイメージがみんなに認められて映像になることの喜びと面白さを感じました。この仕事を自分で本格的に始めるきっかけのひとつだったと思います。

市内に豊富なロケーションが広がる川崎市は、撮影の宝庫

田村正和主演のドラマ「ニューヨーク恋物語」(1988年)のスタッフと話をしたときのことで。撮影許可申請後に支払いなどを済ませていざニューヨークへ撮影に行くと、「ニューヨーク恋物語様はこちら」など各所の道路標識に案内表示がされていて、誘導スタッフや警備の配置も万全だったそうです。かつてスラム街だったニューヨーク市は、世界に向けて撮影の誘致活動を行い、そこで得た資金を、街のインフラや貧困をなくすための雇用などに使って環境を整え、それが治安の改善につながったんだという話を聞いて、すごいなと。そうやって収益をうまく地域に還元できる道はないかなと思って、川崎で、地域密着型でやってみようかなという想いが活動の原点になっています。

川崎市は、市民が遊べる施設も充実しています。川崎区には工場や海があり、駅の傍はオフィス街や繁華街で賑わいます。中原区へ行くと住宅街があって、多摩区には山や森など自然が広がっています。いろんなロケーションが川崎市市内にあるし、多摩川を挟んですぐ隣は東京なので、都内のロケ隊が移動しやすいというメリットもあります。加えて、川崎には、マイクロバスの業者に衣装屋、家具のレンタルなど、映像に関係する業者がそろい、映画大学もあります。こんな魅力のある川崎なら、「映像のまち」という強みを活かせる取り組みがたくさんできるのではないかなという大きな期待もあります。

映画業界とワークライフバランス

うちは共働きだったので、特に子どもが小さい頃は、仕事との両立が大変でした。すぐ熱を出したり、保育園で風邪をもらったり。隣に母が住んでいたのでサポートしてもらいながら仕事をしていました。頻繁に仕事も休めないで、シッターさんにもお願いしましたね。お給料がシッター代で消えていくので、何でそこまでして働かなきゃならないのかという葛藤もありましたし、やはり後ろ髪をひかれる気持ち、心配な気持ちなどで辛かったです。それでも、子どもが大きくなってから「働くお母さんは偉いと思う」と言ってもらったときは嬉しかったです。

最近では、映画やドラマの撮影は、そこまで時間が押すこともなくなってきましたが、不規則な時間帯で仕事することもあります。ミュージックビデオの撮影は大変で、今でも夜中になることが多いですね。こういった職場環境下で、子育てや介護をしながら働くことは決して容易ではありません。

ある大手テレビ局系のチームでは、8時間労働が決められていて、時間が来たら別のスタッフと交代するという撮影隊もありました。監督やカメラマン、照明チーフなど

の立場だとそうはいかない面はあるものの、アシスタントの人たちは交代制で勤務していました。今後はそのような現場も増えるのかと思います。

また、私たちが直接連絡をとっている撮影場所を探す制作部の方のなかには、撮影場所のリサーチ・許可取りのみを担当して、早朝・深夜になる撮影現場にはいかない、という働き方をしている担当者もいます。そのほか、現場担当が難しい子育て期間は「デスク」として働く女性もいると思います。子育てや介護などのケア役割を担いながら仕事とのバランスを調整するのが、依然として女性が多いというのは課題ですね。

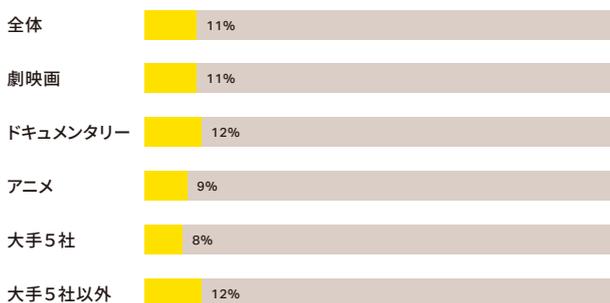
映画業界に関わる仕事のさまざまと性差

こういった業界で働く人たちのなかで、最近は女性が増えてきたという印象があります。昔もいましたが、女性はメイクやスタイリストといった特定の職種に限られていた気がします。荷物を運ぶなどの力も必要になる照明、カメラ、録音などの技術職は、ほぼ男性が占めていました。今はその技術職でも女性が増え始めてきたと、5、6年

2022年の劇場公開作品における

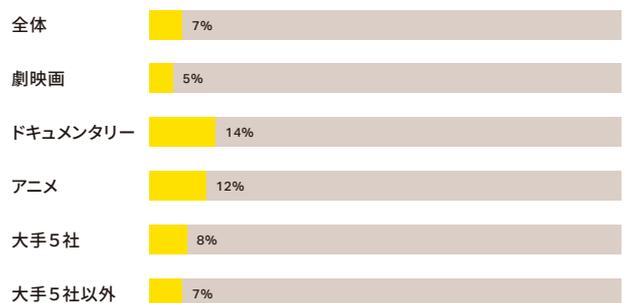
監督の女性比率

	総数	女性	女性率
全体	613	68	11%
劇映画	457	51	11%
ドキュメンタリー	90	11	12%
アニメ	66	6	9%
大手5社	105	8	8%
大手5社以外	507	60	12%



撮影の女性比率

	総数	女性	女性率
全体	613	43	7%
劇映画	460	23	5%
ドキュメンタリー	95	13	14%
アニメ	58	7	12%
大手5社	106	9	8%
大手5社以外	506	34	7%



前あたりから思うようになりました。ただ、技術職でトップを務めている女性はまだ少ないです（Japanese Film Project 2023 調査資料参照）。

業界自体も変わってきて、この仕事を始めた頃は、いわゆるブラック業界という位置づけで、部下に対する扱いや言動もひどく現場は憂鬱だなど思うこともありました。時代とともに、だんだんとテレビ局や配給会社のコンプライアンスが重視されるようになってきてから変化がみられるようになったように思います。あと、技術の進歩も大きくて、昔は機材が重いし荷物の量も多かったけれど、照明もLED化されてコンパクトになり、カメラも照明がなくてもきれいに映るほど精度が上がったので、時代の変化と合わせて女性も増えてきていますね。

まだ全体としては人数は少ないけれど、女性の監督も増えてきましたよね。TBSドラマ「アンナチュラル」の監督（塚原あゆこさん）も女性ですが、彼女が助監督時代から私たちはずっとご一緒させていただいていました。チーフ助監督で長い間経験を積んだ後に監督になるということがあるので、今後も少しずつ増えていく気がしています。

男女比でいうと、制作部には女性が多いです。ここは撮影隊を仕切る部署で、トラックの運転等もありますが、撮

影場所の選定・許可取り、現場のケアなどを主に担当しています。目指すのはプロデューサーで、知り合いにも女性のプロデューサーは多いです。また、美術も女性は多く、美術デザイナーとしてセットの設計をし、大道具等のスタッフに指示を出しています。

撮影のチームによって男女比は異なりますが、先日担当したキー局のドラマは、男性：女性＝3：2ほどの割合でした。

川崎には映画大学もあるし、同じ業界で卒業生と仕事を一緒にすることもよくあります。川崎から、どんどん活躍する方が増えてくると嬉しいです。

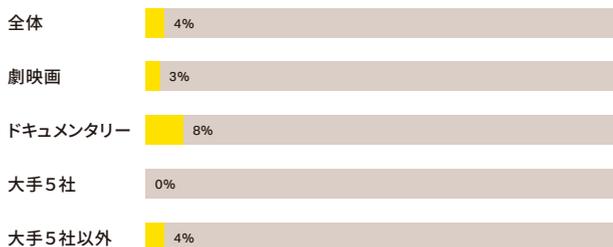
海外の撮影隊に学ぶ働き方や働き手へのケア

海外の作品で、Netflix や Amazon が日本で撮影をする作品がありますが、海外と日本の働き方の違いがよくわかります。対応をみていて、海外の方がハラスメント研修やコンプライアンス研修をしっかり受けている印象があります。労働時間も朝から夕方までの決められた時間内で、オンとオフがはっきりしています。週に1日は必ず撮

ジェンダー格差（出典：「映画年鑑 2023」）

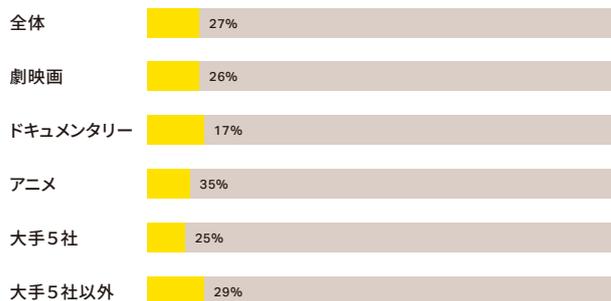
照明 の女性比率

	総数	女性	女性率
全体	338	12	4%
劇映画	325	11	3%
ドキュメンタリー	12	1	8%
大手5社	62	0	0%
大手5社以外	275	12	4%



美術 の女性比率

	総数	女性	女性率
全体	368	101	27%
劇映画	285	74	26%
ドキュメンタリー	12	2	17%
アニメ	71	25	35%
大手5社	104	26	25%
大手5社以外	263	75	29%



休(撮影休日)があるし、撮影終了から、翌日の撮影開始までは必ず 8 時間を空けると決まっています。まだ十分ではないですが、少しずつ日本にも導入され始めて労働環境の改善はみられますね。

Netflix さんの時は必ず「クラフト部」というのがあります。撮影隊は、照明部、撮影部、録音部、衣装部、制作部などと部門が分かれています。クラフト部は、皆さんの心にゆとりができるように、いろんな飲み物や食べ物などを用意する部です。バナナ、ミルク、コーンフレークなどは必ずあって、現場のスタッフも楽しめる空間が作られています。

また、日本では広いスペースがあった時に、まずは駐車場として押さえ、空いたスペースを休憩場所として使うことが通常ですが、海外の方は、駐車スペースの確保よりも皆でゆったり食事をとれる空間を優先します。車はどこか違うところに停めてきて、それよりも大きなテントを立ててくつろげる場所を広くとろうと。そうやって働く人のモチベーションを上げる感覚を大事にすることを当たり前として感じますね。

また、中国の有名な映画「僕はチャイナタウンの名探偵」(2015 年)の続編が東京が舞台だったんですよ。パート 2 はコロナ禍もあって日本ではあまりヒットはしませんでした。撮影をしたときに、照明部の人たちが大勢いることに驚きました。日本だと 5 ~ 6 人くらいですが、マイクロバスが何台もきて、20 ~ 30 人もいます。人件費の無駄ではないかと最初は思っていたんですね。ところが撮影に入ると、照明部が大人数なので次のカットの準備を分担して行い、待たせない時間を作るんです。人数が多いとは、こういうことだったんだ、とわかりました。これはハリウッドスタイルと呼ばれているようです。日本だと少人数制で次のカットの準備に少し時間を要して待ち時間もあるのが普通です。経費のかけ方が全然違い、効率が良く撮影もあっという間に終わりました。中国は国費で支援されているのもあるかもしれませんが、カルチャーショックを受けましたね。

アニメでも川崎が舞台に。ロケ地として川崎の魅力を伝えたい

「映像のまち・かわさき」推進フォーラムのイベントで、経済産業省の方が講演されて、主な産業として映像やコンテンツ産業をバックアップしていく方針にするという話をされました。そうすると海外での興行収入

としても稼げるし、観光として海外の人たちが来日して聖地巡礼などをすれば、大きな産業になると。やっと日本も気づいてくれたかという想いになりました。

文化として日本のアニメが海外で大変人気ということもあります。2024 年に「ガールズバンドクライ」という川崎を舞台にしたアニメが放送されました。

このアニメのお話を聞いたのも、ちょうど 5 年前くらいでしょうか。東映アニメーションの人から、川崎が舞台のガールズバンドのアニメを作るのに、ロケハンの許可の取り方などの相談をされ、素晴らしい企画だと思いました。川崎は、「音楽のまち」としての街づくりをやっているでしょう。アニメ界の老舗である東映アニメーションが製作で、川崎を舞台にすることで私もかなり喜んでしまって、すぐ川崎市に伝えに行きました。けれど最初の反応は、「え、漫画でしょ?」「東京 MX テレビが川崎を舞台にしてくれるの?」と意外にもみなさん最初は塩対応で(笑)。映画やドラマと違う世界で川崎を舞台とすることにピンときてなかったのかもしれない。

ところが放送開始になると、大人気で。私たちは企画段階から東映アニメーションに協力をさせてもらっていたので、放送開始前に「川崎市ロケ情報誌」で紹介させてほしいと依頼をしていたらすぐに画面のキャプチャもくれて、アニメ内の撮影スポットの紹介ページを作りました。今ではこの情報誌が人気になってしまい、中国の方などが欲しがって観光案内所に来るようです。

アニメも、キャラクターのグッズ購入だけでなく、ファンは市内の撮影スポット巡りに行きたいですよ。川崎のこのロケ地一体は回遊できる場所なので観光地としても盛り上げたいです。アニメは、ファンが継続的に来るので、貴重なコンテンツですね。



9人の語りから紡ぐ
かわさきの女性の歩み

1990年～2020年の30年



本誌『すくらむ』のバックナンバーでも
お話の一部を特集ページで紹介しています。



vol.75



vol.78



vol.81

かわさきで生きる女性たちの声をまとめた冊子 『かわさきの女性の歩み』を発行しました！

『かわさきの女性の歩み』は、2022年度から3年間かけて取り組んできた「かわさきで生きる女性の声の聞き書き調査」のまとめとして発行するものです。

本冊子では1990年代から2020年代までの約30年間に焦点をあて、さまざまな立場や状況において女性たちがどのように考え、生きてきたのかを聞き書きとしてまとめました。時代の最前線で先駆者として道を切り開いてきた「フロントランナー」、高度成長期から今日まで川崎で働き、生きてきた「生活者」、そしてこれからの時代を生きていく「次世代」の3つのテーマを設け、それぞれ3人ずつ、あわせて9人のゲストをお迎えしてトークサロンを開催、元朝日新聞記者の林美子さんがゲストにインタビューするという形でお話を伺いました。

ぜひ手に取って読んでいただきたい1冊です。

- 【インタビュー】中村 立子さん(川崎市男女共同参画センター初代館長)
 崔 江以子さん(川崎市ふれあい館館長)
 横溝 正子さん(神奈川県弁護士会所属 弁護士)
 西本 マルドニアさん(カラカサン～移住女性のためのエンパワメントセンター～共同代表)
 小林 玲子さん(下野毛工業協同組合 事務局)
 堀田 彰恵さん(川崎市看護協会 会長)
 岡野 めぐみさん(yellow Rocket合同会社 CEO(代表社員))
 平野 さやかさん(株式会社ちとせ研究所)
 上園 智美さん(防災士/日本ミクニヤ株式会社)
- 【編集・構成】林 美子さん 【イラスト】亀石 みゆきさん
- 【発行】2026年3月/川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)

私が人生で影響を受けた、本や言葉

～『かわさきの女性の歩み』にご協力いただいたみなさんに、伺いました～



亀石さん

『窓ぎわのトットちゃん』(黒柳徹子著)
 小学校を退学になったトットちゃんにトモエ学園の校長先生が言った「じゃ、これで、君は、この学校の生徒だよ」という言葉は、学校に馴染めず疎外感を抱いていた私に「こんな私にもどこかに居場所があるかもしれない」という希望を持たせてくれたお守りのような言葉です。



崔さん

「私は自由でありたいと願った、ただの一人の人間として記憶されたい。」
 ローザンパークスは公民権運動の象徴として語りられてきましたが、自分は特別に歴史を動かそうとしたわけではないと、静かに語っています。ただ尊厳を脅かされずに生きていってほしいと願った、その思いを、私も大切にしたい。



西本さん

長年使っているフィリピン料理の本は、私の人生と深く結びついています。これまで多くの女性や子どもたちと共に料理を楽しんできました。故郷のメニューを眺めながら次は何を作ろうかと考え、その料理を「美味しかった」と言ってもらえたとき、いつも大きな感動を覚えています。



岡野さん

「卵の殻を割らなければ、目玉焼きは作れない」(名言)
 中学生の頃に観たキヤラメルボックスの舞台上で出会った言葉。ずっと挑戦する心を忘れずに来て、フランス語の有名なことわざでもあることから、フランス人夫との大切な共通項になりました。後に、ゲーリングの言葉(正確にはオムレツ)だと知りました。



中村さん

学位(工学博士)を取得する前後から女子美術大学で非常勤講師をしていました。そこで女子美術大学の創業者横井玉子先生の『芸術を持って女子の自立をなす』と言う教育理念に接し、とても感動し、また共感してその後約30年程、続けることになりました。



自分らしくエシカルに、そして楽しく編む方法



先日、ひさしぶりに近所の毛糸屋さんで開催される編み物会に行ってきました。毎月第三水曜日に開催される編み物会。毎回、5～10人くらいの編み物好きが集まってワインやスナック片手にそれぞれの作品を編みます。まさに、すくらむの手芸クラブのような雰囲気です。参加者は年齢も性別もさまざまで、最近飼い始めた猫が可愛い話や、お互いの編んでいる作品について、ハンドメイド界隈のゴシップから政治・経済まで、ああでもこうでもないといろいろとおしゃべりをして、解散していきます。

ロンドンも、まだまだ編み物ブーム真っ只中。電車で編む人もしばしば見かけるし、編み物会もいろいろなところで開催されます。なんと最近引っ越してきたルームメイトも、編み人でした。世界中で不安がうずまき、コロナという時代を経験し、すべてが不確かで不透明に感じられる今。たとえひと編みひと編みでも自分の手でリズムと糸の弾力を感じながらなにかを形作る、このかづよさに、惹かれている人も多いだろうと思います。まさにそんな編み物好きのひとりとしては心強い状況です。

とはいえ、物価高のロンドン。当然毛糸も、安いはずがありません。とくに円安が激しい今日「値札に並んだ数字を円換算し、そっと棚に戻す」を繰り返す日々。いよいよ貯金の底もはっきりと目視できるようになってきた秋頃に、それでもがまんができなくなった私はチャリティーショップ巡りをすることにしました。

チャリティーショップでは、寄付された古着や本・食器などなど様々な中古品が販売されているのですが、しばしば毛糸があることも。ロンドンには、ほんとうにたくさんのチャリティーショップが立ち並んでいて、私の住むエリ

アには日本で言うところのコンビニ位の数と同じ通りに並んでいるほどです(ちなみにお店によって、難病の子ども支援、動物虐待に反対する団体、メンタルヘルス支援、ホームレス支援などなどテーマは様々)。

しかしこの日は、何軒回っても気に入る毛糸はどこにもありませんでした。しかたない、諦めて帰ろうか。そう思ったときに、ふと何ヶ月か前に読んだ本『編むことはカー—ひび割れた世界のなかで、私たちの生をつなぎあわせる』で知った、古着のセーターを買ってそれを編むというアイデアを思い出しました。結局その日は、水色の毛玉がついたセーターを5ポンド(約1000円)で買って、一晩かけて6玉の大きな毛糸玉を作成しました。

なるべく環境負荷のかからない糸、倫理的に作られた糸を使いたいと思う一方で、それらはどうしても高くなってしまふものです。そんな私にとってチャリティーショップのお宝探しなら、楽しみつつも、環境にも影響少なく、気に入る糸探しにいそしめるのかも…!あらたなこの町の楽しみ方を発見できた1日でした。



▲ 東ロンドンの独立系毛糸ショップ3つが協力し、地域の人たちとの協力で作られた編み物のメッセージバナー。このあたりのエリアは、昔からコミュニティの力が強い地域とされていて、チャリティや地域・コミュニティのために活動している人が多くいます。



いとう
伊藤まり

1993年東京生まれ。編集ライター。大学在学中よりフェミニズム活動に参加し、署名活動やパフォーマンス、レクチャーなどを行う。現在はロンドン在住。ウェブメディア「パレットトーク」副編集長をつとめる傍ら、ジェンダーやフェミニズムに関する執筆や講演を行う。個人でもフェミニズムやロンドンでの暮らし、趣味の編み物について発信中。



近くにあるのに、同じではない暮らし



バンコク近郊からタイ北部に引っ越しました。この地域の山間部には「山地民」と総称される少数民族が住んでおり、インフラの未整備や教育へのアクセスなど、さまざまな課題に直面しています。そうした状況の中で、女性や少女たちの経験は、民族や地域、家族のあり方によって異なり、一様には語れないジェンダーの課題として見えてきます。

また、この地域は、ミャンマーやラオスと国境を接しており、こうした地理的条件と、近年のミャンマーの国内情勢もあり、ミャンマーからも多くの人に移り住んでいます。このことから、少数民族の女性団体やミャンマーの女性団体など、多くの市民団体がこの地域を拠点に活動していることを学びました。

私が現在所属している大学もこうした市民団体との協働が活発に行われており、ジェンダーについて学ぶことは、机上の学びだけでなく、社会を変えようとする実践との両輪が必要なのだと感じています。

昨年11月には国連の定める「女性に対する暴力撤廃の国際デー」に合わせて、学生が主体でイベントを企画、運営しました。当日は、ミャンマー、ベトナム、中国、ガーナなどさまざまな国出身の学生が集まり、ジェンダーに基づく暴力をなくすためには何ができるのか、一緒に考えました。多様

な背景を持つ人々が集まることは難しさもありますが、でもやはり強みなのだろうと今改めて考えます。

そして、この原稿を書いている現在は、タイと日本のいずれにおいても選挙運動が行われています。タイではこれまでにインラック元首相とペートンタン元首相の2人の女性首相が誕生していますが、いずれもそれぞれタクシン元首相の妹、娘という関係でもありました（もちろんそれだけが彼女たちの能力を測るものではないですが）。

私の住む町でも選挙ポスターが目につくようになりました。SNS上では、候補者による投稿だけでなく、多くのタイの友人も自分の支持する候補者や政党の投稿をシェアするなど、市民による活動も活発な印象を受けます。

一方で、私の住む町から物理的にはそう遠く離れていない山間部に住む人々は、同じ選挙にどのように関わっているのだろうか？と考えるとあります。そして日本でも、真冬に実施される選挙は、特に雪の多い地域で暮らす人々にとっては、多くの苦労があるだろうと想像します。選挙に「参加」できることは、すべての人にとっての当たり前ではありません。誰の声が届きやすく、誰の声が届きにくいのか、この視点を忘れずにいたいと思います。

参考) 片岡樹(2024)「《総説》タイの少数民族」
https://www.ritsumei.ac.jp/research/aji/asia_map_vol03/thailand/country01/



あらかわ たいき
荒川 泰輝

1993年、茨城県生まれ。早稲田大学卒業、英国・サセックス大学ジェンダー・暴力・紛争修士課程修了。男女共同参画センター等での勤務を経て、タイに渡る。ジェンダーと開発学の修士課程を修了し、引き続きタイで勉強を続けています。





「アートとジェンダー」のテーマに関連するおすすめの書籍を紹介。
掲載の書籍は、すくらむ21で閲覧および借りることができます。

フェミニスト紫式部の生活と意見

～現代用語で読み解く「源氏物語」～



平安文学研究者出身の作家・奥山景布子が、「フェミニズム」「ジェンダー」「ホモソーシャル」「おひとりさま」「ルッキズム」など、現代を象徴するキーワードを切り口に「源氏物語」を読み解く。そこに浮かび上がってきたのは、作者・紫式部の女性たちへの連帯のまなざしだった。時空を超えて現代の読者に届くメッセージ——希望ある未来へとバトンを繋げる新解釈。著者初の古典エッセイ。

2023年9月発行
(著者) 奥山景布子
(出版) 集英社

女性とジェンダーと短歌

～書籍版「女性が作る」短歌研究～

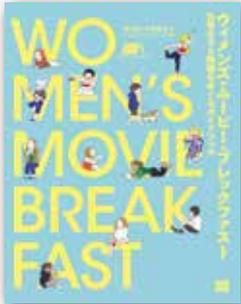


2021年8月号で話題となった特集をさらにバージョンアップして書籍化。全54人の新作短歌、11人の寄稿、馬場あき子×水原紫苑・対談などに加え、大森静佳、川野里子、永井祐、東直子、水原紫苑、穂村弘(司会)による座談会を掲載。

2022年1月発行
(著者) 水原紫苑
(出版) 短歌研究社

ウィメンズ・ムービー・ブレイクファスト

～女性たちと映画をめぐるガイドブック～



映画史における「女性」、スクリーン上に存在する女性たち、あるいはそのイメージを紡ぎ上げる作り手、映画表現における女性存在をめぐる思考、あるいはその先で映画を広げようとする方々まで、「女性たちの映画史」に向き合うための方法を、この本と共にみつけよう。

2024年4月発行
(編著) 降矢聡+吉田夏生
(監修) グッチーズ・フリースクール
(出版) フィルムアート社

CINEMA TALK VOL.2



かつて本誌『すくらむ』でも表紙イラストを飾ったことのある、人気イラストレーター亀石みゆきさんによるイラストと文字で綴る映画感想ノート。前作VOL.1の「児童文学と映画」に続いて、VOL.2では「女の友情と映画」をテーマに女性同士の友情を描いた11作品を紹介。

2018年11月発行
(著者) 亀石みゆき
(出版) 個人出版ZINE

ジェンダー写真論 増補版



女性やLGBTQの写真家、現代美術作家たちはどのように社会と対峙したか。学芸員として、日本の美術界におけるジェンダー表現を世に問い続けたパイオニアである著者のテキストをまとめ、大好評を得た『ジェンダー写真論1991-2017』(2018年刊)が、新テキストを大幅に加えてリニューアル。

2022年8月発行
(著者) 笠原美智子
(出版) 里山社

キッチンからカーネギー・ホールへ エセル・スタークとモンテリオール女性交響楽団



オーケストラが女性演奏家への門戸を閉ざしていた1940年代、カナダ。自ら指揮棒を持ち、女性たちだけでオーケストラを立ち上げた人物がいた。彼女の名はエセル・スターク。スタークによって結成されたモンテリオール女性交響楽団は、何を成し遂げたのか。偏見と差別が支配する社会で、性別・人種・階級の壁を打ち破った女性たちの記録。

2022年11月発行
(著者) マリア・ノリエガ・ラクウォル
(訳) 藤村奈緒美
(出版) ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス



2011.3.11 から 15年

東日本大震災で避難している女性のためのほっとサロン

平成23(2011)年3月11日、三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、翌12日には東京電力福島第一原子力発電所の連続事故が起きました。多くの方が発災直後から県内外へ避難し、川崎市内にも一時的にとどろきアリーナに避難所が開設されました。しかし、閉鎖後も避難生活を続けざるを得ない方は多く、借り上げ住宅などでの生活が長期化していきました。

とどろきアリーナ避難所の閉鎖に伴い、中原区役所内に

「東日本大震災避難者支援総合窓口」が設置されましたが、寄せられる相談から、長期の避難生活の中で故郷を離れて暮らす女性が安心して過ごせる場の必要性が明らかになりました。こうした状況を受け、平成24(2012)年に「川崎市内に避難している女性と子どものためのほっとサロン」がスタートしました。

ほっとサロンは、同郷の方との交流や仲間づくり、気やかな相談の場として、現在まで継続して活動しています。



ポストカード作りやパステルアートに挑戦。



すくらも21まつりにも出店！



みんなでお昼ご飯を作り、交流を深めました。

月に1回のほっとサロンが大好物です

毎月元気がもたらせてくれてありがとう！！

ほっとサロンは本当に癒しです。毎月の集まりが楽しみです。

すくらも21にお昼ご飯作り、交流を深めました。今年も頑張ります。よろしくお願いします。

参加者のメッセージ
私たちにとっての「ほっとサロン」



ほっとサロンは途中の語り合いが楽しかったです。今年も頑張ります。よろしくお願いします。

ほっとサロン 赤坂のほっとサロンは本当に癒しです。

すくらも21は本当に癒しです。今年も頑張ります。よろしくお願いします。

すくらもの料理作りは毎月楽しみにしています。

東日本大震災から15年を迎えるにあたり、震災発生から今日までの歩みを振り返り、被災者の声や記憶を後世に残すため、以下の取組を進めています。

- ① 「ほっとサロンメンバー提供写真によるパネル展示」(6/28 すくらもまつりで開催予定)
- ② 記念冊子『「女性のためのほっとサロン」のあゆみ』の発行

「困難な状況にある女性への支援物資の募集」に関するご報告

すくらむ21では、国が主唱する「女性に対する暴力をなくす運動」(11月12日から11月25日)にあわせて、11月1日から11月30日まで、DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者とその子どもたちをはじめ、経済的に困窮し困難な状況にある女性たちが安心して新たな生活を送ることができるよう支援物資の募集を行いました。

今年度は、8団体から、寄附金120,000円と図書カード3,500円分、ご寄贈品1,271点をいただきました。寄附金でセンターが品物を購入し、緊急避難施設(シェルター)や母子生活支援施設、自立支援施設、障害者グループホームに提供したほか、センターが実施する事業と連携して、DV被害者など経済的に困難な状況にある女性や子どもたちへ提供しました。今年度は、提供方法を見直し、食品と日用品を「生活応援パック」にして、お一人ずつに合計72パックをお届けしたほか、寄附金を活用して業務用スーパージャーを購入することができました。スーパージャーは、センター内で実施する居場所事業において食事の提供時に活用させていただきます。皆さまから心温まるご支援を頂戴しましたことに心よりお礼申し上げます。



女性活躍を推進している川崎市内の中小企業を認証する制度

「かわさき☆えるぼし」認証企業を決定しました！

川崎市では、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組んでいる中小企業を「かわさき☆えるぼし」認証企業として認証し支援しています。平成30(2018)年度の制度創設から8回目の募集となる今年度は、新規企業24社を含む79社を、「かわさき☆えるぼし」認証企業として決定しました。現在認証中の企業81社と合わせて160社が認証企業となりました。女性の採用拡大や働きやすい企業としてのイメージアップなど本制度のブランドイメージの活用を目指して申請する企業が多く、女性活躍推進の取組が広まりつつあります。

認証企業一覧は、川崎市ホームページを御覧ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000123776.html>



令和8(2026)年度も認証企業を募集します！皆さまも認証企業に仲間入りしてみませんか？

①対象 常時雇用従業員の数が300人以下で、川崎市内に事業所又は事務所を有する企業等

②認証期間 更新企業5年間、新規企業3年間

③認証取得によるメリット

- ・ 認証マークを名刺や企業ホームページ等で使用できるなど、「かわさき☆えるぼし」認証企業であることのPR
- ・ 川崎市ホームページ等での取組紹介
- ・ 人材確保支援(就職説明会等の情報を積極的に提供)
- ・ 公共調達の入札等において利用する主観評価項目点の付与



事例集で企業のPRも!
(令和8年3月発行)

【問合せ】 川崎市市民文化局人権・男女共同参画室
TEL: 044-200-2300 FAX: 044-200-3914

かわさき☆えるぼし

検索